

目 次

序 文	アン・ハリントン	v
編者序		xiii
謝 辞		xvii
第 1 部 序 論		
第 1 章	心身の研究における心と心の不在	
	ハリス・ディーンストフライ	3
第 2 部 歴史的展望および総説		
第 2 章	強力な偽薬	ヘンリー・K・ビーチャー 15
第 3 章	医療史における偽薬効果——精神医学に対して持つ意味	
	アーサー・K・シャピロ	30
第 4 章	痛みの治療と研究における偽薬効果の重要性	
	ジュディス・ターナー他	42
第 5 章	強力な偽薬効果——事実か虚構か	
	ゲンファー・S・キーンレ他	58
第 3 部 自然発生的現象		
第 6 章	食物過敏性を測定するための二重盲検法による症状誘発の研究	
	ドン・L・ジュウエット他	79
第 7 章	メニエール病手術における偽薬効果——3年後の追跡調査	
	イェンス・トムセン他	92
第 8 章	偽薬としての外科手術——先入見の定量的研究	
	ヘンリー・K・ビーチャー	100
第 9 章	心理療法——強力な偽薬	ウォーレス・ウィルキンズ 114

第4部 実験的研究および理論的研究

- 第10章 ストレスの増大とともに偽薬の効力が高まる証拠
ヘンリー・K・ビーチャー…………… 121
- 第11章 副作用と偽薬効果の増幅 リチャード・トムソン…………… 135
- 第12章 偽薬の二重盲検法的投与と偽りの投与
アーヴィング・カーシュ他…………… 144
- 第13章 期待、治療的教示、偽薬反応
フレデリック・エヴァンズ…………… 156
- 第14章 非特異的現象を特異化する——偽薬効果のメカニズム
アーヴィング・カーシュ…………… 172
- 第15章 臨床および研究における偽薬
P・P・デ・ダイン他…………… 188

第5部 毒性反応と反偽薬効果

- 第16章 偽薬投与の効果と毒性反応の発生
スチュワート・ウォルフ他…………… 205
- 第17章 毒性偽薬——偽薬投与中に報告された副作用および毒性
レイモンド・C・パッグ…………… 211
- 第18章 反偽薬——被暗示性の力 ハーバート・スピーゲル…………… 218
- 第19章 反偽薬効果——その歴史と生理学
ハーバート・ベンソン…………… 231
- 第20章 反偽薬現象——概念、証拠、公衆衛生に対して持つ意味
ロバート・A・ハーン…………… 240

第6部 偽薬効果の規模と限界

- 第21章 偽薬により誘発された転換反応
——ヒステリー性失語、発作、昏睡の神経行動学的、脳波学的研究
ロナルド・S・レヴィ他…………… 253

第 22 章 強迫性障害における偽薬反応の欠如	
	M・R・マヴィッサカリアン他…… 275
第 23 章 いぼの退縮に対する催眠療法、偽薬、サリチル酸治療の効果	
	ニコラス・P・スパノス他…………… 266
付 章 癒しと心——暗黒面は存在するか	
	ラリー・ドッシー…………… 285
資料と参考文献	
参考図書案内……………	309
参考文献……………	313
索 引……………	355